（３）②様式第３号－２（報告書）

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。
※必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等コラボ研修プログラム支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 国立大学法人千葉大学
	事業名： 【NITS・千葉大学教職大学院コラボ研修】千葉大学教職大学院シンポジウム
	研修等名：【NITS・千葉大学教職大学院コラボ研修】 千葉大学教職大学院シンポジウム 「教育現場の今、そしてこれから」～地域連携と資源活用で描く未来図を考える～
	開催日時：令和７年２月８日　１３時００分～１６時３０分 開催場所：千葉大学大学（千葉県千葉市稲毛区弥生町１－３３） 参加人数（総数）と参加者の属性： 参加人数８７人（現職教諭２５人、管理職 16 人、大学・学生行政他　４６人）

目的：

千葉県内では地域によって過疎化が進み、学校の統廃合が行われている。このような状況の中で、学校は地域コミュニティの中心的な存在となり、学校と地域社会が連携することで、地域の活性化や教育の充実を維持することが求められている。また、学校が抱えている課題はますます複雑化・困難化しており、社会全体で対応することが求められてきている。このシンポジウムをとおして学校と地域がどのように連携し、協働を目指していくかについて考え、学校や地域の将来を担うスクールリーダーの育成を目指す。

内容：

基調講演「千葉県の子供たちの学びの充実に向けて」　～誇りと可能性を高める教育を目指して～
千葉県教育委員会教育長　冨塚　昌子　氏

（概要）千葉県の児童生徒の現状と課題を整理し、コミュニティースクールの導入状況が示された。県内でも自治体間で差があり、地域学校共同活動と一体的に取り組むことが課題であると提言された。その後、地域学校協働活動の文部科学大臣表彰を受賞した事例が紹介された。また、これからの教育として第４期千葉県教育振興基本計画策定に向けて、県行政の方向性が示された。

シンポジウム

【シンポジスト】

筑波大学人間系教育学域准教授	丹間　康仁　氏
君津市教育委員会生涯学習文化課副課長	布施　利之　氏
千葉県立大多喜高等学校校長	福田　茂博　氏

【コーディネーター】

千葉大学教育学部　教授　　貞廣　斎子

（概要）　シンポジストから現場、自治体、県内市町村の状況についての報告がなされ、討議の柱として「真の協働の実現」「地域社会の形成者としての育ちの保障」「統合できないその先」について話し合われた。持続可能な協働のためにはコミュニティースクールの導入や、そこでの地域と学校のマインドセットの変革が求められる。将来的には単なる統合が難しくなる時代が来る。小規模校でも地域課題に向き合い、解決するための学びの保障や、学校から地域に還元することで地域のまちづくりを実現することが必要であると提言された。

成果：終了後のアンケートから　（回答数２１人）

内容に満足できたか…とても満足　１２人　やや満足５人　どちらとも言えない４人

＜自由記述＞

・統廃合について問題意識をもっています。本日は、さまざまな立場の方から話を聞けて勉強になりました。
・貴重なお話が聞けました。学校側(大多喜高校)だけの意見でなく、地域(君津市教委)がわからも話が聞けて、新たな視点(課題)が見えました。学校運営協議会でさっそく提案します。
・全体的に情報量が多く、広く浅い印象であった。理想論は大切だが、現実の問題と少し離れたところで議論されていた感じがする。具体的にどうしていくかの視点がほしかった。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

・分校制度を見直し、低学年では少人数で学習し、ICT を用いて本校や他地域の子供との交流を図り、高学年では本校でのリアルな交流というような流動性も必要ではないかと感じた。また、何より地域連携のためには学校、地域が要望を出すだけではなく、現状を伝え合う中で合意形成が必要であり、そのためのコミュニティースクールでありたいと感じられた。参加者にもその意識を感じている方が見受けられ、気づきから小さな一歩でも歩んでいきたいという思いが感じられた。一方で、具体的にどうしたらよいかという「正解」を求める声も見られた。さらに参加者が考える場面の設定などの工夫も必要であると感じた。

アイディアや工夫したこと：

・千葉県教育委員会、千葉市教育委員会の後援を申請し、千葉県教育委員会教育長に後援を依頼した。

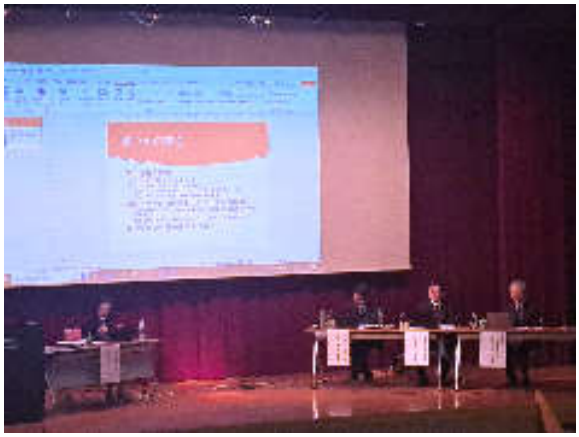
・案内を千葉県県内全教育委員会、公立学校に配付し、現職教員が参加しやすいように土曜日の午後に実施した。

・シンポジウムの休憩時に forms を利用し意見の集約を随時受け取り、それを活用して討議の柱をつくった。

開催案内

基調講演　千葉県教育長　冨塚昌子氏

意見集約の画面


シンポジウムの様子